

## PW値に関連する因子の検討

当院糖尿病患者を中心に

小林 昌弘, 原田 謙, 山本 慶和, 松尾 収二 (天理よろづ相談所病院)

動脈硬化を早期に発見するためにPW(脈派伝播速度)が頻用されている。糖尿病患者におけるPW検査の報告は多いが、動脈硬化に関する検査との関連性に視点をのいた検討は少ない。そこで今回、糖尿病患者群におけるPW値と各種検査項目との関連性を検討した。

### 【対象および方法】

対象は、糖尿病100名(17~84歳、平均59.1歳)、健常者19名(40~56歳、平均49.3歳)であった。PWの測定は、フクダ電子社製のVaSera VS-1000を用い、簡易測定法にてbaPW(brachial ankle PW)を測定した。糖尿病群について、T-Chol、HDL、LDL、TG、HbA1c、血糖、食後血糖、Cre、クレアチニンクリアランス(C-Cre)、尿中ALB(U-ALB)、尿蛋白、正中神経伝導速度(正中MCV)、脛骨神経伝導速度(脛骨MCV)、年齢、血圧、HR、BMI、および合併症の有無を診療録より抽出し、これらとPW値との関連性を検討した。

### 【結果および考察】

PW値は、糖尿病群(平均14.9)は健常者群(平均13.3)

に比べ高値であり( $p < 0.01$ )、また糖尿病患者の中でも合併症群(平均15.2)は非合併症群(平均14.3)より高値であった( $p < 0.05$ )。

次にPW値を異常値、正常値に分けてみると前者は後者に比べ、食後血糖高値( $p < 0.05$ )、C-Cre低値( $p < 0.01$ )、正中MCV低値( $p < 0.01$ )、脛骨MCV低値( $p < 0.01$ )、高年齢( $p < 0.01$ )、血圧高値( $p < 0.01$ )、HR高値( $p < 0.01$ )であった。すなわちPW値と脂質データとは関連性が小さく、糖尿病合併症(腎、神経)の存在を示すデータとの関連性が大きかった。

### 【結語】

PW値は、食後血糖高値、高年齢、高血圧、HR高値の他にクレアチニンクリアランス低値、神経伝導速度低値など、糖尿病の合併症を示すデータとの関連性が大きかった。

連絡先：0743-63-5611(内線8624)